

旭酒造株式会社 <https://www.asahishuzo.ne.jp/>

「日本酒を米国・EU・中国等 30カ国以上へ輸出」

平成28年度
輸出に取り組む優良事業者表彰
農林水産大臣賞

<事業者の概要>

1. 所在地：山口県岩国市周東町瀬越2167-4
2. 代表者：代表取締役社長 桜井 一宏
3. 主な品目：日本酒
4. 主な輸出先国・地域：米国、EU、中国、台湾、香港等 30カ国・地域以上
5. 事業概要：原料米を山田錦に限定した純米大吟醸酒「瀬祭」を製造・販売。杜氏に頼らず社員だけで四季醸造を行っている。酔うため、売るための酒ではなく、品質にこだわりぬいた味わう酒造りを目指している。



「瀬祭」



麴製造

【輸出の取組内容】

- 2002年から台湾向けに輸出を開始。
- 2003年から米国のニューヨークに拠点を置き販路を開拓。2007年からはフランスを拠点にEUに販路を拡大。2008年から中国への輸出を開始。
- 2011年には、ユダヤ系が多い米国市場での販路拡大のため、地酒として初めて「コーシャ」（ユダヤ教の清浄食品基準）を取得。
- 2015年に新蔵を整備し、生産規模を拡大。売上高に占める輸出の割合は5割を目指す。
- 2023年にニューヨーク蔵が稼働を開始。米国における日本酒市場の拡大を目指す。

【取組経緯】

- 普通酒の売上げの減少をうけ、純米大吟醸酒に特化した醸造システムへ転換。
- 新たな販路として首都圏市場に進出したところ、「瀬祭」が人気となり知名度が向上。
- このことをきっかけに、地元の小さな市場より大きな市場の方が販路を確保出来ると実感し、世界を目指した。

【課題と対応方法】

- 栽培の難しい「山田錦」の確保
→取引を期待できる農家との長期の栽培契約や、新規生産者への栽培ノウハウの提供により原料確保の道筋をつけた。
→取引農家に今までのを超える山田錦作りに挑戦していただくため、2019年から『最高を超える山田錦プロジェクト』を開催。
- 商品の品質管理
→取引先を蔵に招いて、製造研修に参加いただき、品質管理のノウハウを身につけていただく。同時に、弊社が求める品質管理の体制や販売方法に対応できる取引先と契約を継続する。

【実績】

輸出額（万円）		輸出国割合（％）	
2020年度	349,799	中国	56
2021年度	691,263	米国	14
2022年度	702,014	EU	3
		その他	27

【今後の事業展開】

- ✓ 「瀬祭」が、どこの国でも同じように楽しめるよう、品質管理に注意しながら、さらなる輸出拡大を目指す。
- ✓ ニューヨーク蔵を拠点に日本酒の魅力を発信し、日本酒市場を自社の力で広げる。